vivo

水戸芸術館音楽紙［ヴィーヴォ］Vol.281

12-1

December 2026 – January 2027



photo ©中倉壮志朗

特集 02

演奏活動40周年の節目に 豊嶋泰嗣インタビュー

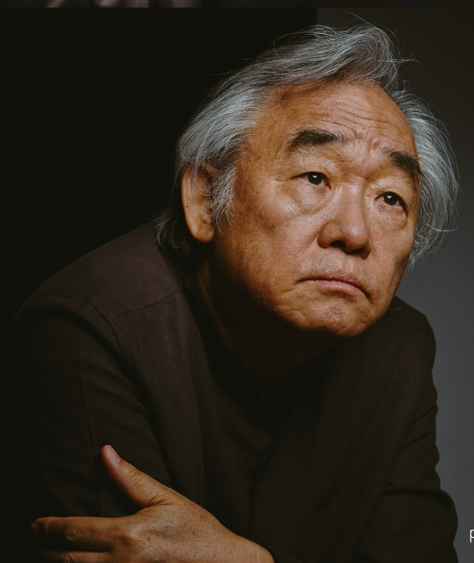


photo ©ROHSH

04 音楽と過ごす特別なクリスマス｜クリスマス・プレゼント・コンサート2026
06 INFORMATION

水戸芸術館
ART TOWER MITO

演奏活動40周年の節目に
豊嶋泰嗣（ヴァイオリン）インタビュー

聞き手：中村 晃



――演奏活動40周年おめでとうございます。水戸芸術館では1990年の開館の時から、豊嶋さんにたいへんお世話になっております。当館では水戸室内管弦楽団、ATMアンサンブル、水戸カルテットの3つの専属楽団が開館と同時に活動を始めましたが、豊嶋さんには、まずATMアンサンブルと水戸カルテットのメンバーとして、ご参加いただきました。この2つの楽団の活動で印象に残っていることをお聞かせください。

1990年の開館ですから、私はデビューして4年目ぐらいの時期でした。当時、これらのアンサンブルでは基本的にヴィオラを担当していました。様々な作品を演奏させていただきました。ATMアンサンブルでは、ピアノの園田高弘さんとの共演（2000年）も思い出深いです。あの時は水戸の前に行った公演先で食べたものが悪かったらしく、皆でお腹をこわしてしまいました。私だけは大丈夫だったのですけれど（笑）。クラリネットのカール・ライスターさんとの共演（2007年）というのもありました。あの時はブラームスの〈クラリネット五重奏曲〉などを演奏しました。

水戸カルテットでも多様な作品を経験しました。吉田秀和初代館長の喜寿のお祝いの会（1990年）でハイドンの〈ラルゴ〉（弦楽四重奏曲 第79番）を演奏したことがとても印象に残っています。

――吉田秀和・水戸芸術館初代館長とはどのような思い出がありますか。

吉田先生がいらっしゃっていると、すごく良い意味での緊張感がみんなの中にあったのを、肌感覚として覚えています。吉田先生に関しては、水戸室内管弦楽団の方で接することが多かったですね。一番記憶に残っているのは、小澤征爾さんが出演できなくなったヨーロッパ公演（2008年）で、急遽、指揮者なしでベートーヴェンの交響曲（第4番）を演奏することになった時のことです。リハーサルやゲネプロなどを全部聴いていただき、色々なアドバイスをいただきました。基本的には吉田先生は演奏家ではないので、普段は演奏に関するアドバイスのようなことはなさらないですし、ご自身の感じたことや思ったことを演奏後に述べられることはあっても、演奏前にということはありませんでした。しかし、あの時はたいへんな状態でしたので、いただいたアドバイスは本当に有り難いものでした。

――今、お話しくださった水戸室内管弦楽団での活動ですが、豊嶋さんは第1回演奏会からご出演くださっています。その後はエキストラ出演を重ねられ、2007年から正式メンバーとなり、今日に至っています。第1回演奏会や結成当初のことをお聞かせください。

小澤征爾さんが指揮のスタイルも含めて最もエネルギッシュな時代だったと思います。第1回公演は、ロストロポーヴィチさんがソリストとして出演され、プログラムのメインがチャイコフスキーの〈弦楽セレナード〉だったことをよく覚えています。第1回演奏会の時は第2ヴァイオリンの一番後ろの席から小澤さんを見ていました。大きなオーケストラを振るときとは全然違う、室内楽的な細やかなニュアンスにすごくこだわって演奏されていました。そして、小澤さんは一人ひとりの自主性を非常に求めていました。初期のメンバーは本当に個性的な人が多くて、様々な意見が飛び交って結構大変だったと思うのですが、それを小澤さんがうまくまとめていらっしゃったと思います。

――小澤征爾さんとのプライベートも含めた交流など、たくさんお有りかと思いますが。

水戸ではうなぎを食べたり、お蕎麦のパーティがあったり、オフのときにも小澤さんと接する時間がとても多かっ

たですね。東京で仕事をしているときは、リハーサルが終わったらみんな自宅に帰ってしまいますが、水戸では、一緒にご飯を食べる機会も多く、普段話さないような話題やプライベートな話をしたりしていました。そういった過ごし方ができたことが、演奏にも良い影響や効果をもたらしていたのだろうなと思います。水戸で過ごす時間というのは、小澤さんもとても楽しそうにしていらっしゃいました。普通のオーケストラとは違う一面だと思います。

――晩年の小澤さんは豊嶋さんに全幅の信頼を寄せ、自ら指揮をする際には、必ず豊嶋さんをコンサートマスターに指名していました。そうした折に、小澤さんがおっしゃっていたのは、「僕がこうやりたいと思ったことを、すぐさま反応してくれる。こんなに反応の良いオーケストラは他にはないよ」ということです。それを先頭に立って橋渡ししてくださっていたのが、豊嶋さんだったのだと思います。

いや、私一人ではなくて、この事に関しては全員一人ひとりがそういう反応をするようなトレーニングを、それこそ創立の時からやっていましたし、このオーケストラに来るとそういう耳になってそういう反応になる、という風に結果としてなったのではないでしょうか。ですから、やはり特別なオーケストラなのだと思います。

――水戸室内管弦楽団の今後の展望について、お考えをお聞かせください。

水戸に滞在してリハーサルを行い、本番を迎えるということを長年続けてきているので、街と音楽とが強く結び付いています。水戸ではこういう音楽を作るというベースができていて、それは本当に貴重な、他では成し得ることが難しいことだと思います。小口達夫名誉顧問が「水戸を世界の水戸にしたいんだ」と、楽団の結成当初から一途な思いを持って楽団の発展に努められて、水戸で「黒光りする音を解き放つ」とか、独特な表現をされていましたが（笑）、その理想は実現してきているような気がします。

私達も30年、40年と歳をとってきて、音楽に対する考え方や接し方など、自分の人生の中での位置づけも変わってくるとは思うのですが、水戸に来ると原点に立ち戻れるように感じています。水戸はいつまでも、そういう場であり続けてほしいなと思いますし、それは出来るのではないかなと感じています。水戸以外にはそういう場所がない気がしますね。

――今年の12月には演奏活動40周年記念公演の一環として、ピアニストのクンウー・パイクさんとの共演によるブラームスのヴァイオリン・ソナタの全曲演奏会を、水戸芸術館でも開催させていただきます。このプログラムに籠められた想いをお聞かせください。また、クンウー・パイクさんとはどのようなピアニストなのか、なぜ今回共演者としてお選びになったのかをお教えください。

ベートーヴェンのソナタ全曲演奏は何回か行っていて、園田高弘さんとも演奏したことがあるのですが、ブラームスを一夜で3曲弾くというのは、これまではありませんでした。40周年の記念公演ということで、やったことのないことにチャレンジしようというのが、今回のプログラミングの出発点です。

その際に、どの様なピアニストと演奏するかということが、私にとってとても重要な事でした。パイクさんは私よりも20歳くらい年上の、今年80歳になられる巨匠ピアニストですが、以前、オーケストラでパイクさんがソリストでベートーヴェンの〈協奏曲 第3番〉を取り上げた時に初めて共演させていただき、とにかくその演奏に私は大きな感銘を受けました。人間性が音楽に現れるというのはこういうことなのだと思いました。本当に人間的にも素晴らしい人で、多くを語らなくても音楽がすべてを語っているという類稀な音楽家です。これまで様々な素晴らしいピアニストと共演してきましたが、ブラームスのソナタ3曲を弾こうと考えた時に、すぐに名前が浮かんだのがパイクさんだったのです。今回パイクさんが共演を快諾してくれて、とても嬉しく思っています。

プラームスのソナタは、3曲とも内面的な音楽だと思います。演奏者の内側が充実していないと音楽になりにくい、表面的な音の問題ではなくて、人間性や人生観が深く音楽に反映する曲だと思っています。そんなブラームスのソナタ群に、パイクさんと一緒に、向き合ってみようと思っています。

――ありがとうございました。12月の演奏会を楽しみにしております。

■公演情報

豊嶋泰嗣（ヴァイオリン）＆クンウー・パイク（ピアノ）

2026.12.15（火）18:30開場 19:00開演
全席指定
一般¥6,000、U-25（25歳以下）¥2,000

●曲目
ブラームス：
ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調 作品78 〈雨の歌〉
ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 作品100
ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調 作品108

音楽と過ごす特別なクリスマス

文：角増 柊

街がクリスマスの華やかな雰囲気に包まれる12月。大切な人と過ごす時間や、年末に向けて盛り上がる巷の空気を楽しみにされている方も多いのではないでしょうか。今年のクリスマスシーズンも、クラシック音楽の生演奏に耳を傾けながら、特別なひとときを過ごしてみませんか。

12月19日（土）に、毎年恒例の「クリスマス・プレゼント・コンサート2026」が開催されます。企画とお話を担当するのはおなじみ水戸市出身の作曲家・池辺晋一郎さん。弦楽四重奏、児童合唱、ピアノ、ソプラノ&テノール、そしてパイプオルガンと、今年もさまざまな編成の音楽を一度に楽しめる内容となっております。

作曲家の言葉で広がる鑑賞の楽しみ


池辺晋一郎
©東京オペラシティ文化財団

本公演の企画とお話を担当する池辺晋一郎さんは、日本を代表する作曲家の一人です。1943年に水戸市で生まれ、管弦楽曲や室内楽曲、オペラ、合唱曲など幅広い分野で作品を発表してきました。映画やテレビドラマの音楽も数多く手がけ、クラシック音楽の世界にとどまらない活躍でも知られています。池辺さんが音楽を紹介する際の魅力は、専門的な内容でも親しみやすく――得意のダジャレを交えながら――伝えてくださる点にあります。池辺さんのトークを通して、作品の背景や作曲家の個性、楽器の音色の違い、そして各出演者の意気込みなどを知ると、聴き慣れた旋律も新鮮に感じられます。今回の公演では、池辺さん自身の作品も演奏されます。作曲家の解説と実際の演奏を通して、音楽を聴く楽しみだけでなく、音楽を知る楽しみも味わえることでしょう。

弦楽四重奏で味わう室内楽の奥深さ


尾池亜美
©HIDEYASU SAJI

須山暢大

田原綾子
©Taira Tairadate

山澤慧
©Ayane Shindo

第1ステージには、アミティ・カルテットが登場します。尾池亜美さん、須山暢大さんのヴァイオリン、田原綾子さん（賛助出演）のヴィオラ、山澤慧さんのチェロによる弦楽四重奏です。2016年に活動を開始し、古典派から現代音楽まで、弦楽四重奏の可能性を追求しています。弦楽四重奏は、2つのヴァイオリン、ヴィオラ、チェロという4つの楽器で演奏する室内楽の代表的な編成です。オーケストラのように大勢の演奏者がいるわけではありませんが、それぞれの楽器が旋律を受け渡し、時に寄り添い、時に主張をぶつけ合うことで、豊かな響きが生まれます。4人の演奏者による対話に耳を澄ませてみてください。今回の注目曲の1つが、2024年に新たに発見されたモーツァルトの未発表曲〈ガンツ・クライネ・ナハトムジーク〉です。さらに、企画・お話の池辺晋一郎さん作曲の〈ストラータV〉も演奏されます。古典派のモーツァルトから現代の作曲家である池辺さんの作品までを通して聴くことで、弦楽四重奏という編成が紡いできた音楽の時代の変遷や、表現方法の違いまでご体感いただければ幸いです。

児童合唱が届けるクリスマスの喜び


NHK水戸児童合唱団

第2ステージには、NHK水戸児童合唱団が登場します。「地元に愛される歌声を」をモットーに、日本の童謡や歌謡曲からクラシックの宗教曲まで幅広いレパートリーに取り組み、茨城県内外で活動しています。指揮は原田昌江さんと瀧本真己さん（ともに水戸出身）、ピアノは田中直子さんと伊藤真理さんです。演奏予定曲には、〈赤鼻のトナカイ〉や〈ジングルベル〉といった、クリスマスを代表するおなじみの曲が並びます。12月になると思わず口ずさんでしまう親しみやすい旋律も、NHK水戸児童合唱団の澄んだ声と重なることで、また違った魅力を発見できるはずです。合唱における「ハーモニー」はじつに奥深いものです。複数の人が異なる高さの音を同時に響かせたり、ときには同じ旋律を歌ったりすることで音楽に奥行きが生まれるのはもちろん、「声」を扱うからこその“呼吸感”から、器楽とはまた違った緊張感が立ち上ってきます。一人ひとりの声が集まり、互いを支えながら1つの音楽を形づくるその響きからは、合唱

ならではの温かさを感じられます。クリスマスの定番曲を楽しみながら、ぜひ、この「声が重なる」ことで生まれる美しさにも耳を傾けてみてください。地域に根ざした合唱団が届ける歌声が、水戸の冬を優しく彩ります。

阪田知樹さんが奏でるピアノの魅力


阪田知樹 ©Ayuste

第3ステージには、ピアニストの阪田知樹さんが出演します。阪田さんは2016年、ハンガリーのブダペストで開催されたフランツ・リスト国際ピアノコンクールで第1位を獲得し、さらに6つの特別賞を受賞しました。国際的に高い評価を受け、幅広いレパートリーを持つ演奏家です。今回の公演では、リストの〈愛の夢 第3番〉と、シベリウスの〈樅の木〉などを演奏予定です。〈愛の夢 第3番〉といえば、甘美で歌うような旋律が有名なリストの代表作の1つです。リスト自身が作曲した歌曲《おお、愛しうる限り愛せ》をもとにしています。ところで、ピアノという楽器は、鍵盤を押すことでハンマーが弦を打って音を生み出すため、音を伸ばそうとしても次第に音量が減衰してしまうのが宿命です。そのため、ピアノで「歌う」ような音を出すためには非常に高度な技術や表現が要求されるのですが、阪田さんをはじめとするピアニストたちは、音の強弱や響きのつながりを絶妙にコントロールすることで、まるで人が歌っているかのような表現を生み出します。そうして紡がれた旋律がどのように歌い、変化していくのかを意識して聴いてみると、ピアノのために書かれた作品であっても、その裏側に隠れた魅力がいっそう伝わってきます。シベリウスの〈樅の木〉は静かな旋律が特徴的な作品で、雪に包まれた冬の樅の木がじっと寒さに耐えているかのようです。樅の木といえば、日本ではクリスマスツリーを思い浮かべる方も多いと思いますが、シベリウスの祖国フィンランドでは、厳しい自然の中で緑を絶やさないことから、「強い生命力」「永遠の命」「家族や家を守る神聖な存在（守り神）」としての意味合いも持つそうです。

ソプラノとテノールの華やかな競演


湯浅桃子 ©深谷義宣

新堂由暁 ©深谷義宣

第4ステージでは、ソプラノの湯浅桃子さんとテノールの新堂由暁さんが、ピアノの山下百恵さんとともに登場します。湯浅さんは、透明感のある歌声と華やかなコロラトゥーラを得意とする歌手です。コロラトゥーラとは、細かな音の動きや素早い音の連なりを華麗に歌いこなす歌唱技法を指します。新堂さんは、クラシック音楽に加えて「ディズニー・オン・クラシック」など、ジャンルを越えた活動でも知られるテノール歌手です。テノールならではのしなやかな歌声が、ソプラノとの共演でどのような響きを生み出すのかも聴きどころです。池辺晋一郎さんの歌劇《高野聖》で昨年カバーキャストを務め、池辺さんもその実力を評価するお二方は、《高野聖》からの二重唱〈白桃の花〉、バーンスタインのミュージカル《ウエスト・サイド・ストーリー》から〈マリア〉などを演奏予定です。オペラやミュージカルでは、歌声そのものが登場人物の感情や物語を伝える重要な役割を担います。たとえ言葉の意味が分からなくても、旋律の高まりや声の響きから、喜び、切なさ、憧れなどを感じ取ることができます。2人の歌手がそれぞれの旋律を歌いながら、1つの音楽をつくり上げるこのステージでは、声が重なる瞬間や、互いの旋律が交差する場面にも注目してみてください。

パイプオルガンの響きで余韻を楽しむ

公演の余韻をさらに楽しみたい方は、東方理紗さんによるパイプオルガンのアフター演奏にもぜひお越しください。終演後すぐに、エントランスホールで始まります。パイプオルガンは教会音楽との結びつきが深い楽器でもあり、クラシック音楽の世界では幅広い作品に用いられてきました。とりわけ、クリスマスの季節に聴くパイプオルガンの音色には、特別な趣を感じられることでしょう。

そのほか、本公演では毎年好評の「クリスマス・プレゼント・コーナー」も予定されています。音楽を聴くだけでなく、思いがけないプレゼントとの出会いも楽しめるのは、年末のコンサートならでは。どうぞご期待ください！

■公演情報

クリスマス・プレゼント・コンサート2026

2026.12.19（土）15:30開場 16:00開演
全席指定
一般¥4,000、U-25（25歳以下）¥1,500

●出演
池辺晋一郎（企画・おはなし）、アミティ・カルテット（弦楽四重奏／尾池亜美、須山暢大（ヴァイオリン）、田原綾子（ヴィオラ）、山澤慧（チェロ））、NHK水戸児童合唱団、原田昌江／瀧本真己（指揮）、田中直子／伊藤真理（ピアノ）、阪田知樹（ピアノ）、湯浅桃子（ソプラノ）、新堂由暁（テノール）、山下百恵（ピアノ）、東方理紗（パイプオルガン）

●曲目
池辺晋一郎：ストラータV
ピアポント：ジングルベル
リスト：愛の夢 第3番
バーンスタイン：《ウエストサイド・ストーリー》より〈マリア〉ほか

INFORMATION

※以下は11月1日現在の情報です。公演等に関する最新情報は当館ウェブサイトにてご確認ください。

チケット・インフォメーション

《12.19（土）発売予定》

■MCOセミナー・ウィンズ2027

2027.2.21（日）14:00

料金［全席自由］¥1,000

好評放送中!

Lucky FM 茨城放送

「水戸芸術館 presents みんなのクラシック」

毎週日曜 7:30～8:00

パーソナリティ：石井哲也アナウンサー

出演：音楽部門学芸員（月替わり）



学芸員がおすすめの曲をご紹介して、クラシックの魅力をお届けする番組です。

▶Lucky FM ウェブサイト https://lucky-ibaraki.com/

▶radiko（ラジコ）でもお聴きいただけます https://radiko.jp/

12・1月の主な音楽イベント

コンサートホールATMほか

◆水戸の街に響け！300人の《第九》2026

12.13（日）①12:00／②13:30　入場無料

会場：広場（雨天時：コンサートホールATM）

◆豊嶋泰嗣（ヴァイオリン）＆クンウー・パイク（ピアノ）

12.15（火）19:00

料金［全席自由］一般¥6,000／U-25（25歳以下）¥2,000

◆クリスマス・プレゼント・コンサート2026

12.19（土）16:00

料金［全席指定］一般¥4,000／U-25（25歳以下）¥1,500

◆第3回 茨城キリスト教学園中学校高等学校コーラス部 演奏会

12.25（金）15:00

料金［全席自由］前売券：一律¥1,000　当日券：大人¥1,500／学生¥1,200

◆第16回 佐川文庫 茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート

2027.1.16（土）14:00　会場：佐川文庫

料金［全席自由］¥1,000

◆庄司紗矢香（ヴァイオリン）＆鈴木優人（チェンバロ）デュオ・リサイタル

2027.1.24（日）15:00

料金［全席指定］一般¥6,000／U-25（25歳以下）¥2,000

◆水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン＆ミニコンサート

2027.1.31（日）14:00　会場：ザ・ヒロサワ・シティ会館大ホール

入場無料／要入場券

エントランスホール

◆パイプオルガン・プロムナード・コンサート

（入場無料／事前予約不要）

□12.20（日）11:00～11:45 東方理紗、石原怜奈（フルート）

★クリスマス・スペシャル

□12.26（土）12:00～12:30／13:30～14:00 尾畑瑞香

□2027.1.11（月・祝）12:00～12:45 清水奏花 ★新春スペシャル

□2027.1.23（土）12:00～12:30／13:30～14:00 平野義愛

演劇・美術のイチオシ企画!

ACM劇場

◆岡山芸術創造劇場ハレノワプロデュース

ミュージカル『拝啓 ナイチンゲール様』

12.19（土）、20（日）各日14:00開演

原案：田中ひかる『明治のナイチンゲール 大関和物語』（中央公論新社刊）

脚本・作詞：高橋知伽江

作曲・音楽監督：深沢桂子

演出：眞鍋卓嗣

出演：原田真絢、高野菜々、小多桜子、田代 明、江村美咲 、佐藤誓 他

NHK連続テレビ小説「風、薫る」の原作として話題となった『明治のナイチンゲール 大関和物語』を原案に、高橋知伽江が書き下ろした新作ミュージカル。

料金：1・2階席¥6,500／3階席￥5,000



現代美術ギャラリー

◆収蔵作品展「再会―17人のアーティストによる伝言」

11.7（土）～2027.1.31（日）

［休館日］月曜日（祝日の場合は翌火曜日）、年末年始

［開場時間］10:00～18:00（入場は17:30まで）

［入場料］ 一般¥900／団体（20名以上）¥700

高校生以下／70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料



日高理恵子《樹を見上げて VI》1992年　水戸芸術館蔵
©Rieko Hidaka

2026年11月10日発行（第281号）
編集：水戸芸術館音楽部門 ｜ 中村 晃、関根哲也、篠田大基、角増 柊、根本彩生、高木春佳、渡辺有美
発行：（公財）水戸市芸術振興財団　〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8　Tel.029-227-8118（音楽部門）
Tel.029-231-8000（チケット予約センター 9:30～18:00・月曜休館）　https://www.arttowermito.or.jp/
デザイン：K5 ART DESIGN OFFICE.　印刷製本：山三印刷株式会社

■編集後記

ワタクシ最近、ベーグルにハマっております。そのままを電子レンジでチンしていただくのも好きですが、イチオシは、ブルーベリー味のベーグルにクリームチーズを挟んだ定番のもの。これはほぼチーズケーキです。ベーグルに出会ったときには、皆様もぜひご賞味あれ。（角）

福島県相馬市に行ってきました！道中、紅葉を期待していたのですが、まだ少し早かったようです。帰りに湯本温泉にも寄ろうと思ったら、工事中で休館日…。結局美味しいお魚を食べて帰りました（笑）またリベンジしたいです！（春）

健康診断が近づくと、食事に気を付け、飲酒量を気にし、一応摂生しようとしています。実際できているかはともかく、心がけとしてです。だいたい、健康に悪いものほど、なぜか美味しいんですよね。意地悪じゃないですか、神様。そして健康診断が終わると暴飲暴食のシーズンが訪れます。（篠）

MCO第118回定期演奏会が終演しました。ピンカス・ズーカーマンさんは、リハーサル期間中にメンバーと積極的に交流される温厚なお人柄が印象的でした。「子どものための音楽会」では、ユーモアを交えたパフォーマンスで、子どもたちを楽しませてくださいました。（根）

ニューヨークにわたっていた「ゴジラ」が帰ってくる。突然の吉報に、長嶋さんを想い、不意に涙がこみ上げてきた。令和の巨人軍の本格始動はここからになるだろう。退会しようかと迷っていたFCだが、そりゃ継続するに決まっている。（て）

先日、せっかく金沢に来たなら！と気合いを入れて、市場でのどぐろ丼をいただきました。しかし、生魚苦手界隈の私には市場そのものが落ち着かず、すぐに喫茶店へ移動して珈琲とプリン。とても落ち着く喫茶店に出会い、これが旅か…としみじみしました。（辺）